

R08-202 進水式・廃艇式

Launching Ceremony and farewell ceremony

進水式は艇を大切に扱う決意として重要だし、廃艇式は、艇に対するねぎらいの表現であり進水式以上に重要だ。形式にこだわる必要はないが、気持ちを形にすることに意味がある。

1 式嫌い

I don't like formal ceremony...

私自身は個人的には、あまりかしまった式典や、宗教的色彩の強い式典は敬遠したい気持ちが強い。その式嫌いの自分がこういうのを書くのもどうかと思うが、ちょっと、進水式と廃艇式のことを書いておきたい。

進水式は艇の誕生の式典、廃艇式はいわば艇のお葬式である。といっても、特に公式があるわけではなく、どうやっても良いとも思うが、一般慣習的なこともあるようだ。(おそらく多くの方の支援があって導入された)艇を、全くそういうセレモニーもなく、感謝の念も希薄なまま当然のようにクルーが使い始めるのは良くないと思うし、縁あって新艇が水に浮かぶことになるにあたっては、それに関わった支援者や艇自身に対し、それなりの謝意、敬意あるいは決意をもって臨むべきと考える。そのためセレモニーは、やはり必要だと思う。

以下はもちろんあくまで参考で、式の本質(気持ち)を大切にすれば、方法はRCそれぞれの創意工夫で良いはずだ。「こういう式がよかった」といった情報をいただければ幸いである。



進水式:シドニーサセックスカレッジ, ケンブリッジのサイトより

2 進水式(贈艇式, 命名式など)

祝い事なので、伝統的・宗教的背景があれば、それに応じて日取りを決める。「干潮から満潮までの昇り潮(上げ潮)の時に進行」ということもあるらしい。それにこだわる必要は感じないが、知っておいて損はないだろう。

開式: 進行役による進水式開始の宣言。

部歌・校歌等: せっかく校歌や部歌があれば、こういう機会しかないのではと思うので、演奏するか歌うのは良いことと思う。ちょっと照れるが…(笑)

贈艇: 贈呈の辞として、贈呈者が贈艇する旨の宣言と現役への期待などを述べる。これを受け、贈られる側が謝辞を述べ、来賓の祝辞が続く。

命名・安全祈願: 命名者が「本艇を〇〇と命名する」と宣言し、それとともに艇名を覆っていた紅白の幕を除幕し、艇が披露される。(…なるほど…) これに合わせて、あるいは前後して、神事・神事・洗礼等が行われる。

支え綱切断: …というのは、大きな船での話。女性が斧で綱を切るとシャンパンが船首にあたって砕け、くす玉が割れ、万

国旗(漁船なら大漁旗)を飾った船が船台をゆっくり滑って進水…というヤツですね。でも競漕艇では、安全と活躍を願い、お酒(シャンパンや日本酒)をバウに注ぐということになる。そのお酒を、集まった方々に分杯したりもする。

進水: クルーが乗込み初漕ぎとなる。(ここで万歳三唱か?)

進水完了報告: 無事進水、試漕したことを、クルーが贈艇者に報告。(拍手!)

閉式~祝賀パーティと続く…(まあこんなところかな?)

3 廃艇式(譲渡式)

個人的には、ある意味、進水式以上に、廃艇のセレモニーこそちゃんとすべきだと思う。新艇のとき進水式は盛大に「大事に使うぞ、これがんばるぞ」と華々しくデビューした艇が、クルーが代替わりするにつれて粗雑に扱われ、次の艇が入ればあつという間に艇庫の隅に追いやられ、ボロ艇扱ひされ、あるいは野ざらしになっていくって、ちょっとおかしいのでは?



艇を大切に扱う気持ちがどれほどのものか、推して知るべしというところだろう。哀れな艇のすすり泣く声が聞こえる。いくら進水式で「大切に」と宣言しても、老艇の扱ひを見れば、10年後の自分の姿を見て、新艇もぞつとしているに違いない。

使命を終えた艇は放置せず、適切に処理することが、贈艇者と艇自身に対する必要な礼儀だ。共にがんばった歴史を刻んだ艇は、新艇以上に貴重な存在であり、廃艇は礼を持ってねぎらうべきである。

開式: 進行役による廃艇式開始の宣言。

部歌・校歌等:

報告: 1.報告と謝辞:艇使用者が、艇の戦績、略歴等を報告し、贈呈者と艇自身への感謝の意を述べる。贈艇者が、艇を駆使してくれたことへの感謝の意を述べる。など。

除籍: 「本艇を〇〇より除籍とする」と宣言し、それとともに銘板など記念として残すものがあれば切除する。(拍手!)

点火: と、木艇の時代には艇を火葬にしていたものだが、最近では廃棄物として適正に処理しなければならない。プラスチック艇では焼却はできない。細かく切断して不燃物として出すことになるのだろう。

閉式: 進行役による廃艇式終了の宣言。お疲れ様!